
おやすみ

芸熊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おやすみ

【コード】

N7464M

【作者名】

芸熊

【あらすじ】

SSです。

何気ない日常の何気ない風景。

「ふう。今日も疲れたあ」

上京してきて3年目の秋。

仕事はかなり慣れ、会社は繁忙期を迎えた。

- - チリン

「ん？」

窓の外を見てみると飼っている猫が帰って来たようだ。

親バカな飼い主かもしれないが美しい毛並みのトラ猫が窓を引っ掻いて鳴いている。

窓を少し開けて猫を迎えてやる。

「お前も疲れたか。そうか」

ナア、と一声鳴いて彼は自分の寝床であるクッションを敷いた力こへ向かった。

自分もそろそろ寝るために準備をしなくては。

夕飯を食べ、シャワーを浴び、ぼうつとベランダでビールを飲む。

この時期でも蚊はまだしぶとく生きている。

耳に鬱陶しい蚊の羽音が聞こえた。

「ふう。蚊取り線香でも焚くか」

蚊取り線香に火を付け、ベランダに置く。

冷蔵庫から冷えたビールも忘れてはいけない。

カシユ、と音を立てビールの缶を開ける。

「やっぱ、ビールは美味しいな。秋は涼しいし、星も綺麗だ」

缶を左手に持ち替え、右手で星座をなぞっていく。

「あれはオリオン。こっちははくちょう座。カシオペア見えないかなあ」

ビールを飲み干しベッドに向かう。

窓を開けたままだと少し寒い。

しかし窓を閉めると多少暑い。

昼間の熱気が部屋に溜まっているのだ。

防犯に関しては、マンションの5階までよじ登ってくる泥棒は居ないだろう。

- - チリン

鈴を鳴らし、猫が僕の布団に入ってくる。

「ん、お前も一緒に寝るか。」

ナア、と一声鳴き彼は布団の中でうずくまる。

おやすみ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7464m/>

おやすみ

2010年10月21日23時26分発行